

手仕事とテクノロジーの融合

イタリア大使館貿易促進部とイタリア産業総連盟が共催した「イタリアフード&ファッション展示商談会」が都内で開かれた。上質でユニークな製品を作る企業が集まった。伝統の物作りに新しい技術を融合し、心地よさを追求する姿勢が目立った。(須田渉美)

環境配慮の姿勢

環境配慮への姿勢が目立ったのは「ウーウエ」。パルマを拠点にするウーウエ・ブランドが、ビジェパノの靴メーカーと2年前から協業開発していたウッドシート製の靴を作る。メイプル、コクタン、チェリーの3種類の原料を混ぜ、薄く伸ばし、布に貼り付けたシートを使う。表面が緻細なさいの目状にカットされて柔軟に曲がり、木型を使ったつり込みが可能だ。今年から卸売りを始めた。パンツ、シューズ、スニーカーなど革靴同様のラインナップで、価格帯は80〜160€。

今年で65周年のバッグメーカー、サブパは、20年春夏向けで立ち上げた「セレブリティ」を出展した。イタリア人の職人20人を雇用して技術を継承し、その品質に定評がある。インクジェットプリントで革に線画をきれいに表現した00年代風のハンドバッグと、ハンドペイントで柔らかに装飾したボショットなどを作っている。280€から。

日本での展示会は初めてというニットメーカー、マリフィーチョ・ペビールは、カシミア製品「カシアート」を見せた。上質感が際立つパーシクアイテムに加え、エ



カシアート

ストラファインカシミア糸を使ってストリートっぽさを出したアイテムが揃う。裏返してスプレーで染めたセーターは、リンクした部分が白く残り、陰影のある雨になっている。140€。

軽さ、柔らかさ

日本向けに既に実績のある企業も、日・EUのEPA（経済連携協定）の発効を受けて、販路の拡大に意欲を高めている。マ



フランチェスカ・パッシ

ルケ州の革靴メーカー、アッチェリオ・ジュスティ・レオンブルーニは、ハイファッション市場で人気のある「AGL」を出展。一部の代理店を通じて日本に入ってきていたが、「本格的に進出する上でパートナー企業を見つけた」といふ。軽い履き心地、スマートなフォルム、クリーンな女性らしさを感じさせるディテールが魅力。90€から。

トスカーナ州のフォントは、婦人靴「フォント」は、コンフォート機能とフォルム的美しさを両立させた製品を紹介した。オーセンティックなスニーカーでも、ソールが若干厚めに成形され、柔らかな履き心地でモダンな印象。50€から。今回は日本のニーズをにらみ、屈曲性の高いサケット製法のローファーを充実させた。60€から。

アートジュエリーの「マリア・ティアナ」は、十数年ぶりの来日展示会。磁器やレジンを材料にしたモチーフ、有機的な形の銅のパーツを組み合わせ、海の生き物など自然を題材にしたデザインが特徴だ。オーキッドをイメージしたピアス55€、ブローチ60€。

コモ地方のネクタイメーカー、BBクラヴァッチは、婦人向けのストール「フランチェスカ・パッシ」を出展した。シルクツイールにプリントしたスカーフ、柔らかな極細糸を使って意匠性を出した大ストールが揃う。ウール・モダールのストールは2配色のカットジャケットでデコラティブに見せつつ、もう一方は同色の組織に仕上げ、両面使いできる。140×150€で48€。(価格帯は全てFOB=本船渡し価格)

心地良さを追求したデザイン



ウーウエ



セレブリティ



AGL

フォント



フランチェスカ・パッシ

コモ地方のネクタイメーカー、BBクラヴァッテは、婦人向けのストール「フランチェスカ・パッシ」を出展した。シルクツイルにプリントしたスカーフ、柔らかな極細糸を使って意匠性を出した大判ストールが揃う。ウール・モダールのストールは2配色のカットジャケットでデコラティブに見せつつ、もう一方は同色の組織に仕上げ、両面使いできる。140×150センチで48ユーロ。